



2024年3月8日

JR西日本あんしん社会財団

2024年度公募助成（活動及び研究）

～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

公募助成の助成先（活動団体・研究者） が決定しました！

○ 応募及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2024年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止並びに事故・災害等の風化防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究（1年及び2年助成）を広く募集しました。平成30年7月豪雨の被災地・被災者支援活動に対する「活動助成（特別枠）」の募集が前回は以って終了したものの、コロナ禍の影響が低減したこと等により、昨年より応募が増え、活動助成49件、研究助成44件の計93件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で41件、2,658万円の助成を行うことを決定しました。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	49件	33件	1,565万円	67%
研究助成	44件	8件	1,093万円 ^注	18%
合計	93件	41件	2,658万円	44%

注) 研究助成（2年助成）の金額については、1年目の助成金額のみ計上しています。

※助成期間は、2024年4月1日から2025年3月31日までの1年間です（研究助成の2年助成は2024年4月1日から2026年3月31日までの2年間）。

※各助成先の助成対象テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

※上表のほか、2023年度研究助成（2年助成）の研究4件の2年目に対する助成（487万円）を行います。

[付 記] 能登半島地震への対応

次回（2025年度公募助成）の募集において、令和6年能登半島地震の被災者・被災地支援活動に対する活動助成（特別枠）を設定予定です。詳細は本年8月上旬にお伝えいたします。

<お問い合わせ先>

JR西日本あんしん社会財団 担当：成島・伊田

TEL:06-6375-3202（平日 10:00～17:00）または E-mail:info@jrw-relief-f.or.jp



「2024年度公募助成（活動及び研究）」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

団体名	活動テーマ	活動概要
あいすのぼう®	ふだんの暮らしの中に取り入れる「謳わない防災」	風呂敷活用法を学ぶ講座を開き、普段使いから防災時にも使える活用法を普及するなど、自然や身の回りにあるものを利用した様々な活用法を知ってもらうことにより不測の事態に備える。
イタミライフキーパー	子育て世代の防災支援活動	子どもたちが楽しめる「キッズサバイバー講座」を開催し、子どもたちに災害が起きた時にどのような対応をすればいいか、自分たちで何が出来るかを考える力を学んでもらう。また、家族で防災について考えてもらうきっかけ作りを行う。
一般財団法人心笑夢	防災語り部コンサート	これから起こりうる災害に役立つよう音楽を通じ防災を語り継ぐライブを行う。若年層に演奏やボランティアに参加してもらい、未来の世代へ災害の記憶、防災の大切さを語り継いでもらう。
一般社団法人LFA Japan	食物アレルギー地域で考える防災講演オンライン	食物アレルギーがある人の災害対策の実例を情報発信するため、オンラインによる情報共有交流会や講演会を開催し、アレルギー対策の全国普及と情報共有ネットワークの構築を行う。
一般社団法人フリンジシアターアソシエーション	明德学区つたえる・つながるプロジェクト「地域防災演劇ワークショップ」	子どもたちが自らの命を守るために必要な「防災知識」「行動力」を養い、地域コミュニティの防災力や地域ノーマライゼーションの意識向上を目的に、防災×表現体験ワークショップや地域防災イベントを開催する。
「命」を考えるプロジェクト実行委員会	「命」を考えるプロジェクト	心臓の鼓動を媒体とした心の交流・命のコミュニケーションを通して、命を自分ゴトとして実感し、命について再考することで、人との繋がりを深めて「心のケア」を行う。鼓動を体験するワークショップ「鼓動に触れる！命に触れる！心のケア」を開催する。
NPO法人AQUAKids safety project	救命率向上のためのバイスタンダーサポート活動	現在、バイスタンダーが手当後に相談できる「カウンセラー」による専門サポートを実施することにより、バイスタンダーが安心して手当に着手できる環境を整え、「バイスタンダーのメンタルサポート」自体の認知度を広める事により、救命率の向上を目指す。
NPO法人Reジョブ大阪	高次脳機能障害・失語症がある人の「就労」を考える包括的イベント	事故等の外傷の後遺症である高次脳機能障害のある方の就労について、考えるきっかけを作り、社会的認知や支援の質の向上を図るため、公開シンポジウムや交流会を開催する。
大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会	災害時のリハビリテーション支援の普及とレベルアップのための研修会開催と指導者育成の取り組み	災害関連死や生活不活発病を予防することを目的に、リハビリテーション専門職を増やすための研修会を定期的に開催。災害時に多くの専門職が被災地で効果的な支援活動ができる状態を目指し、他府県でも研修会を開催できるように指導者育成にも力を入れる。
こどもの笑顔を守る会〜この指とまれ〜	多様性空間で視野を広げる〜“人”の繋がりの中で災害時にも役立つ学びを〜	「防災エスノグラフィ」を実施し過去の災害からの学びを取り入れ、備えを中心に体験的に学ぶ。また、応急手当講座や防災講座を通じ、コミュニティの形成につなげ、発災時には命を守るセーフティネットとして救命の連鎖が上手に循環していくことを目指す。
サウンド・バーサーカー	災害防止啓発・啓蒙活動	防災指導を行っている幼稚園や高齢者福祉施設への慰問時に防災啓発演奏を実施。消防音楽隊の隊員経験者を有するメンバーにより、演奏と災害救助やAEDの体験などを織り交ぜながら行う。その他、一般向けに災害防止コンサートを実施する。
Zen Japanesque incense協会	突然死や事故死の心と身体のメンタルケア活動	死に対する向き合い方をテーマとし宗教法人の住職や看取士など講師からシンポジウム形式など内容を工夫しながら講演を実施するとともに、死の向き合い方を地域の中でも高めるため、心と身体のメンタルケア、タッチングケアの講義を複数回行う。
宝塚市自治会ネットワーク会議	地域ごとに発生確率の高い災害の種類を学んで防災活動に取り組もう！	市民が自ら災害に備える「災害に強いまちづくり」を実現させる為、地形から分析し災害リスクを抽出、それに合致した訓練計画をたて、その地域で必要とされる防災・減災の訓練を行う。
WPPグループ（Japan Pet Press）	福祉とペット活動	保護動物を老人ホームや幼稚園などにつれていき、人と動物が触れ合える機会を作る。殺処分間際の動物であったことを通じペット防災活動を含め、動物の命を考える事等を通じ人の命を考え、いのちの大切さについて学び感じる活動を行う。
チームおせっかい滋賀	食物アレルギーを持つ家庭の災害時の安心対策づくり事業	食物アレルギーと災害時の対応の重要性を講座やイベントにより周知し、防災担当者等が的確にサポートできる環境づくりを目的とする。また、講話やイベントを通じ、食物アレルギーに対する自主防衛能力を高める。
特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット	災害支援情報共有WEBツールを利用した鍼灸マッサージによる災害支援活動の調整および訓練のための事業	被災者の災害ストレス緩和を目的として災害協定が締結されているが、支援活動が出来なかった事を受け、災害時に機能し、『災害活動可視化WEBツール』による情報共有によって、迅速な被災地域での支援活動の実施を目指す。
特定非営利活動法人いのちのケアネットワーク	グリーフケア・スピリチュアルケア提供者を対象としたセルフケア講座	ケア提供者に対するケア体制が整備されていない状況に対し、学びと対話の機会やグループワークの提供を通じて、ケア提供者の消耗を防ぎ、安定した実践の継続をサポートする。
特定非営利活動法人HCGグループ	防災でつながるプロジェクト 身近な命を守るためにできること	親子向けの防災イベント「防災おにごっこ」を開催し、遊び要素のある防災イベントを通じて、市民やその子どもたちが防災意識を高め、地域とのつながりについて学ぶことにより地域の持続的な防災プログラムの運営体制を構築する。
特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会	子育てを支援するための「小児対応救命処置」の確立と普及事業	「小児救命講習会」の開発・開催を行い、「子育て支援」の一環として「小児救命処置と心停止の予防」を確立し、広く社会への普及を図っていく。小児突然死を未然に防ぐことで心停止による死亡を減少させることを目指す。
特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン	るるる(備える・助ける・支える)プロジェクト	水面で救助を求める人や溺者への安全なアプローチから、曳航と引き上げ、救急救命としての応急手当や胸骨圧迫等の移行、ショック症状への対処等の実践的な訓練を実施。発見から救急救命の流れを、ロールプレイングにより学ぶ。
特定非営利活動法人検定協議会	キッズ防災検定	キッズ防災検定を通じ「災害発生時に取るべき行動」について問題や解説で学び、自分の命を守る方法や家族、地域の方々を守るための防災知識の習得し、意識向上を目指す。
特定非営利活動法人産業防災研究所	堺泉北地域における企業防災と地域防災をつなぐ支援活動	堺泉北臨海地区の企業防災の実態と地域住民の意識を明らかにするためにアンケート調査及びヒアリング調査を実施するとともに、行政を交えた相互間のリスクコミュニケーションを促すためにワークショップなどを開催する。
特定非営利活動法人全日本企業福祉協会	高齢者の運転免許返納活動による地域社会の安心安全づくり人材育成事業	高齢者の運転機会の減少と返納時期を高齢者自身で判断するための返納の基準づくりにより、高齢を理由とした交通事故撲滅を推進する。地域の安心安全まちづくりの人材育成も推進する。
日本AED財団 学生チーム まもるまる	女性へのAED使用率向上支援活動	AED使用の際、女性の素肌を出すことに抵抗感があることから考案した、体に被せるシート「まもるまる」を普及させ、女性へのAED使用率を男性と同水準に引き上げる事を目指す。
はすの会 東大阪・神戸	はすの会東大阪・神戸の活動	社会一般の人々にグリーフケアを知ってもらうことを目的に、一般向けのグリーフケアの公開講座の開催や、グリーフケアの提供者のための研修として、講義、グループワーク、実習などを行う。
阪神大震災を記録しつづける会	阪神・淡路大震災から「30年目の手記」の募集と活用	阪神・淡路大震災から30年を迎えようとしている中、今だから語れるものも含め、手記を集め、メディアを通じて広く公開するとともに、災害経験の継承手法についてのワークショップとトークイベントを実施する。
被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」	写真洗浄や防災セミナーを通じた地域防災・世代間交流活動	現地に行かず誰にでも出来る被災者支援として写真洗浄を主に阪神間で行うとともに、その認知度を上げるための写真洗浄フォーラムや初心者向けの防災セミナーを行う。
ポコズママの会 関西	流産・死産経験者でつくるポコズママの会の開催	流産・死産を経験された当事者及びご家族のサポートや、次子出産後も続く悲しみに寄り添う場を提供するため、悲嘆の様子に応じたお話会や講師を招いたセラピーグループワーク等を開催する。
門戸倶楽部	丹後「笑い」の環境教室(環境問題・災害の風化防止を笑い理解する)	子どもたちに「笑い」を通じて、環境問題・災害の風化防止について考える機会を与える。また、「自然災害はどのように起こるのか、それをどのようにすれば防ぐことが出来るのか」を理解してもらえらる場を丹後地区にて提供する。
八尾市東町一丁目自主防災組織	大規模災害時における災害用トイレの活用推進活動	大規模災害時に起こるトイレの問題を地域住民に広報・啓発して、トイレ問題の解決方法を提起する。防災訓練を避難所予定施設で実際に災害用トイレを使用して行い、併せて防災トイレ計画・マニュアルの確認も行う。

結creation	地域の宝は地域で守る！地域資料レスキューからのコミュニティづくり	自然災害が発生した際に、被災した地域の資料を住民自らが守るための処置方法を学び、体験することをねらいとした「水損資料レスキュー講習会」を開催し、事前防災の意識を養う。
レクイエム・プロジェクト神戸いのりのとき合唱団	レクイエム・プロジェクト神戸2025～阪神・淡路大震災から30年 あの日を、あなたを忘れない～	阪神・淡路大震災犠牲者の追悼はもちろん、防災意識向上の喚起と、神戸の震災の記憶風化防止を音楽を通して発信するコンサートを開催。今後発生すると言われている「南海トラフ大地震」「東南海地震」への心の備えも、コンサートを通して喚起する。
和歌山県立熊野高等学校Kumanoサポーターズリーダー部	すべての命を救うプロジェクト ～AEDシートの開発・普及活動～	AED使用率の、特にジェンダーギャップをなくすため、廃棄傘の布を接ぎ合わせ、廃雑誌の背表紙をシートの高端に入れたAEDシートを開発。普及活動を高校生が自ら考え、大人を巻き込みながら率先して行う。
活動助成小計 33件		

【研究助成】

(1年助成)

(研究者名50音順)

研究者名	研究名称	主な研究内容
京都大学大学院医学研究科社会医学系専攻予防医療学分野 今村知彦	子供を突然死で亡くした親のグリーフへの対処行動と潜在的ニーズに関する質的研究	突然死で子供を亡くした遺族が死別後にとったグリーフに対する対処行動を明らかにするとともに、グリーフに有効であった対処行動と潜在的ニーズを抽出し、グリーフケアに辿り着けずに孤立している遺族に示唆を与える。
近畿大学生物理工学部 島崎敬	バス置き去り事故防止のための優れたアイデアの発掘と展開による安全活動エンカレッジ効果の検証	各地の保育園、幼稚園で行われているバス置き去り事故防止のためのグッドプラクティスを発掘し、全国の園に展開することで、置き去り事故の再発を防止する。
和歌山県立医科大学薬学部 永田美沙	防災訓練映像を活用した避難所・救護所内コミュニケーション・ロス低減に関する研究	避難所におけるコミュニケーション・ロスによる重大な2次被害を防ぐため、避難所内で発生するコミュニケーションの状況をヒアリング調査し、ロスの場面を特定するとともに、過去の訓練映像を用いた分析を通じ、コミュニケーションロス改善策を提案する。
研究助成(1年助成)小計 3件		

(2年助成)

(研究者名50音順)

研究者名	研究名称	主な研究内容
和歌山県立医科大学 医学部 法医学講座 石田裕子	クラッシュシンドロームの分子病態機構解明とその治療および予防法開発	喫緊の課題である南海トラフ巨大地震対策。倒壊した建物などで四肢が圧迫された後に救出されてもクラッシュシンドローム(CS)を発症し死に至る可能性がある。CSの治療および予防法を開発する。
関西学院大学社会学部 金菱清	大震災と集会的トラウマの災害社会学的研究	阪神淡路大震災・東日本大震災を中心としたフィールドワークにより、亡き人の喪失や悲嘆及びトラウマをとらえ直し、得られたデータを基に、従来のトラウマ研究の差異を比較検討しながらトラウマ克服のための体系的手法を編み出す。
奈良先端科学技術大学院大学 シェワンジョウ	Ciao:遺族のウェルビーイングサポートのための故人との想像対話療法	遺族との共同設計による、故人との想像力豊かな対話を支援できるチャットボット「Ciao」を開発し、遺族を対象とした評価実験を行うことにより、グリーフケアにおけるチャットボットの有効性を検証する。
関西学院大学建築学部 照本清峰	南海トラフ地震を想定した地域の津波避難対応モデルの体系化に関する研究	津波避難対策に関する地域モデルの評価指標を導出するとともに、地域モデルを形成するためのフレームワークを構造的に示すことによって、それぞれの地域の取り組みの推進に繋げる。
神戸大学 内海環境教育研究センター 林美鶴	津波発生時のマリンハザード把握とその先の予測	地震・津波発生時の大阪湾～紀伊水道でのマリンハザードと、それによる災害の発生状況を把握するとともに、二次被害の防止や救助の判断材料を提供する為、流出物がその後どのように移動するかを予想する手法を開発する。
研究助成(2年助成)小計 5件		
<総合計> 41件		

「2024年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2024年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「2024年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケア、並びに事故、災害等の風化防止に関する活動や研究」として募集いたしました。

コロナ禍により応募の減少傾向が続いていたため、今回の募集にあたり、対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO支援機関、大学等へのチラシ郵送等をより積極的に行い、各所でチラシ等の掲出や配布、ホームページ等への情報掲出に積極的にご協力をいただきました。

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行したとは言え、しばらく続いた感染症に対する社会的な警戒感は当面継続するとの想定と、特別枠として募集を行ってきた平成30年7月豪雨災害の被災地・被災者支援活動の設定を前回で終えたことから、応募数の多少の減少は避けられないと覚悟しておりました。しかしながら、皆さまの安全・安心に対する強い想いにより、応募数は私どものそのような想定を覆し、対前年で増加するという結果となりました。また、研究助成においては、2年助成を中心に、本格的な研究活動再開の兆しも感じられるような多くの応募がありました。

その結果、応募数は合計93件（前年91件）でした。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1次審査と2次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点を意識し、厳正な審査により採択案を決定しました。さらに、研究助成については、一部見直した申請フォームに沿って、当該研究の直接のアウトプットが何であり、それが社会に対してどのようなアウトカムをもたらすのかが明確に描けているかどうかについても重視しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性やニーズ、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

活動助成 33 件、1,565 万円（前年 39 件、1,884 万円(特別枠含む)）、研究助成 8 件、1,093 万円（前年 7 件、803 万円）、加えて研究助成 2 年目に対する 4 件、487 万円（前年 6 件、661 万円）の助成を含め、合計 45 件、3,145 万円（前年 52 件、3,348 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。

採択率は、活動助成が 67%（前年 67%(特別枠含む)）、研究助成が 18%（前年 21%）となり、全体では 44%（前年 51%）となりました。

(1) 活動助成

コロナ禍において実施が困難であった、対面で集まって行う取り組みが増え、それに伴い自然災害の備えとして防災・減災に関する応募が多くありました。次いで心のケア、救命、安全等に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、概ねそれらを反映した結果となりました。

(2) 研究助成

防災・減災に関する応募が最も多く、心のケア、安全がそれに続き、以下、身体のケア、交通、救命等バランスよく応募が寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に該当するものとし、審査を行いました。加えて、それぞれ助成期間（1年／2年）に照らし、テーマ及び計画が相応しいかの観点も重視しました。

4. 総評

今回も熱意溢れる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

全体を通じ、申請上の記載不備等により不採択となる件数割合が、前回よりは減少したものの、依然として一定数ありました。提出時のチェックリストの活用とともに、特に再チャレンジされる皆さまには不採択事由を示した通知書等の確認を是非お願いしたいと思います。

活動助成については、応募された多くの方が地域等の安心・安全を高めたいとの想いでボランティアで取り組まれている方であり、応募に対し敬意を表します。その上で一点申し上げますと、申請書の実施方法欄にもう少し具体的な活動内容を記載いただきたいということです。団体(の代表者様)の想いは強く感じますが、その反面、活動内容は総論に留まり、私ども審査委員が具体的なイメージをすることが難しい応募が少なくありませんでした。本助成は(団体が取り組む)“活動”に対し助成していますので、その活動の具体的な内容がわかるような申請をお願いいたします。

研究助成については、萌芽的研究、応用的研究のいずれであっても、安全・安心に関し、社会実装への期待や他の研究者に参考となるような成果などを申請書から感じられるかという観点を大事にしながら審査いたしました。当研究助成が一つのテーマに対し、助成期間にかかわらず採択回数の制限を特に設けていないのは、そうした成果への到達を願うからに他なりません。

社会実装等への繋がりも意識し、今回申請フォームを一部見直しました。所期の目的・成果実現に向け、必要な助成期間を選択いただくとともに、研究テーマの最終的なゴールイメージを申請書の目的欄に、今回の助成期間における到達点を申請書の成果欄にそれぞれ記載いただき、想いが込められた研究成果に至るロードマップとして私どもに示していただきたいと思います。

本年 1 月に発生した令和 6 年能登半島地震は地域や住民の方々に甚大な被害をもたらしました。一日も早いインフラの復旧が望まれるところではありますが、この地震による被災者の方々に対しては、その後も柔軟かつ長期的な支援が必要であることから、当財団として何かお力になればと、次回の公募助成の募集時にはこの支援活動に対し活動助成(特別枠)を設定する予定です。エリア等詳細な条件は検討中ですが、そちらへの応募もご検討ください。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様のご活躍を心よりお祈りしております。